

令和8年2月2日

大阪府立柴島高等学校 第3回 学校運営協議会 議事録

1 会議日時 令和8年2月2日（月） 15:00～16:30

2 開催場所 大阪府立柴島高等学校 校長室

3 委員

	名前	資格	所属	出欠
会長	森田 英嗣	学識経験者	大阪教育大学 教授	○
副会長	岡崎 鉄彦	地域の関係者	大阪市立淡路中学校 校長	×
委員	表西 貴文	地域の関係者	大阪市新大阪人権協会 評議員	○
委員	三木 幸美	学校運営に資する活動を行う者	とよなか国際交流協会 事業主任	×
委員	坂本 浩子	その他の関係者	元本校後援会会計	○
委員	原條 由佳里	保護者	本校PTA 会長	○

4 事務局（学校側）

高田 裕介（教頭） 三輪 真嗣（首席） 中川 智子（人権教育主担） 藤田 秀樹（事務長）
森田 正良（校長）

5 次第

○会長あいさつ

○校長あいさつ

○協議案件

- ・ R7年度各校務分掌及び学年の年間総括について
- ・ R7年度人権教育推進にかかわる年間総括案について
- ・ R7年度学校教育自己診断の結果について
- ・ R7年度学校評価案について
- ・ R8年度学校経営計画案について

6 協議の概要

○R7年度各校務分掌及び学年の年間総括について

<事務局から総務・教務・生活指導・集団育成・進路指導・保健・自立支援・各学年の順に説明>

【質疑応答】

委員) 図書予算が少ないとのことだが、府からの配当が少ないのか、校内の分配でそうなっているのか？

校長) 府から配当される学校管理費の中から校内で予算配分している。ご指摘はそのとおりだと認識しているが、実際には、学校管理費そのものが潤沢ではなく、他に必要な経費も多くがあり、苦慮しているところ。

会長) 本は重要なものなので、また検討していただければと思う。

委員) 生活指導部のところに記載のある盗撮に関連した進路変更とは、加害者の進路変更か？

事務局) そのとおり。学校として進路変更を求めたわけではないが、本人が校内に居づらくなってしまい、このような結果となった。

会長) 生徒が学校に相談するときの窓口は担任になるのか？

事務局) ほとんどはそうである。

会長) 来年度から自転車のルール違反で切符が切られることになるが、どのように対応するのか？
自転車についての道路交通法上のルールは複雑であり、厳格化される以上はしっかりと周知が必要だと考える。

校長) 他校では警察の協力も得ながらすすめているところもあるようだ。本校でも自転車で通学する生徒は 25%にのぼり、一定の指導は必要であると考えている。他校の事例も参考にしながら、取り組んでいきたい。

会長) 校務支援システム「賢者」に関する業務負担が大きいとのことだが、どのような状況か？

事務局) 「賢者」は一般的な学校向けに作成された校務支援システムであり、汎用性が高い仕様となっているが、それ故に、総合学科である本校にはあまり合っていない。作業手順の確認や入出力された情報の確認が格段に増えたことなどで、負担が大きくなっている。

校長) ほとんどの府立高校において、「賢者」は不評である。

○R7年度人権教育推進にかかわる年間総括案についての質疑応答

委員) 将来に対する不安やネット上の情報などにより、例えば外国人を排除する動きも強まっていると感じる。差別事象についても役所には多くの報告が届いているが、学校はどのような状況か？

事務局) 自分の立場を守るために外国人を攻撃の対象とする風潮には、学校でも危機感を感じている。具体的にそのような事象があるわけではないが、いじめにつながらないように、「種の段階」から対策をとるようにしている。

会長) 「種の段階」からの対応とはどのようなものか？

事務局) はっきりとしたいじめが生起する前段階として、人間関係についての理解のずれや事実誤認を含めたもつれが生じているケースが多い。学校が介入するには及ばないような事案であったとしても、生徒から訴えや相談があれば、すぐに対策会議を設けて情報共有を図っている。いじめとして認定するかどうかということよりも、このような初期対応と情報共有こそが重要であると考えている。

校長) 昨年度、初動で教員間の共通認識がうまくいかなかったことで、対応を誤ったケースもあった。これを教訓化して、今年度は、初期からの対応を徹底するようにしてきた。

委員) SNSでの誹謗中傷などについては、どのように対応しているのか？

校長) すべて把握することは難しく限界があるが、生徒からの訴えや相談により知り得た事案には迅速に対応している。

○R7年度学校教育自己診断の結果についての質疑応答<校長からポイントを説明>

・12月に実施した学校教育自己診断の結果に基づいて分析したもの。経年変化を追うため、質問内

容は例年と同様。

- ・生徒の回答の肯定率は依然として高水準にある。教職員についても上昇した項目が多かった。引き続き、ブレずに、自信をもって、しっかりと取組をすすめていきたい。
- ・一方で、「家庭学習」の項目で肯定率が低いなどの課題もあり、この結果を今後の取組に還元させながら、さらなる改善に努めたいと考えている。

【質疑応答】

委員)「学校に行かせて良かった」など、高水準を保っていることは素晴らしいことだ。一方で、校則が緩いと感じるところもある。保護者も巻き込みながら指導することも必要ではないか。

校長) ご指摘の旨は承知している。ただ、方向性を間違えると、これまで築いてきた学校と生徒との関係を損なうこともある。生徒自身を巻き込むこと含め、丁寧にすすめていきたい。

会長)「家庭学習に向けての工夫」というのは、学習習慣をつけさせるということか？

事務局) おっしゃるとおり。家庭での学習時間を確保できるよう、各教科が課題を出している。しかし、生成AIの普及がすすんでおり、それを踏まえた内容のものが求められるようになっている。

会長) 生成AIについては、使わせないのではなく、使用を前提とすることが必要である。スライドはAIが作成してもスピーチは本人の能力であることから、自分で内容を説明させるなどの工夫を行うことが大切だ。

○R7年度学校評価案及びR8年度学校経営計画案について<校長からポイントを説明>

- ・評価指標を自己診断における生徒の回答の肯定率に置いているため、学校評価も高水準を維持している。
- ・「めざす学校像」や「中期的目標」については、来年度も大きな変更はない。
- ・「次年度の取組内容」については、教員の時間外在校等時間が問題となっていることから、それを必ず計画に盛り込むよう教育庁から指示を受けている。これまで教育庁より示された働き方改革の取組をすべて実行し、校内でも様々に努力した結果、教員の時間外在校等時間はかなり減少してきた。これ以上さらに削減するための方策はすぐに出ないというのが正直なところだ。

【意見交換】

事務局) 補足すれば、時間外在校等時間の多くは部活動によるもの。特に土日の活動は一日在寮するとそれがそのまま計上されてしまう。部活動の地域移行も高校ではそれほど進んでいないこともあり、顧問となる教員のことを考えると、部活動をそのまま維持するのはかなり難しい状況になっている。いくつかの部を廃止するなど、思い切ったことが必要である。

委員) 入試改革のことでも協議させてもらったが、これからも地域と関わりながら検討を続けてほしい。また、崇禅寺駅や柴島駅の高架下の開発を含めた地域の活性化についても、ぜひ柴島高校生に関わってもらいたい。今後も地域に根差した学校づくりをお願いしたい。

校長) 承知した。こちらこそよろしくお願ひしたい。

事務局) では、令和8年度学校経営計画案について、本協議会としては了承としてよろしいか。

委員一同) 了承した。